

「第一回ワクチン接種」

2021年06月07日

コロナウイルスワクチンの第一回接種を、6月5日に港南スポーツセンターで受けた。80歳以上の人の接種申込通達が来て、最初の日には、パソコンと電話で予約をしたが、申込者が多くて、予約を取れなかった。二回目の申込日に、パソコンで予約が取れた。新聞、テレビでは、申込者が殺到し、混乱していると連日、報道していた。コロナに感染したくないとの焦りは当然であろう。電話が通じず、スマホやパソコンを持っておらず、心配で会場に来たという人がいたそうだ。そのような人々には、予約申込方法は不親切だと思う。接種予定日を連絡し、都合が悪い人に返事を求めればよいのではないかな。

私は当日、決められた時間の10分くらい前に、会場に行った。大勢の人々が来ていたが、適切な会場案内を受け、予診などスムーズに進み、接種することができた。接種後の15分間の安静時間を加え、全体で30分もかからなかった。よく準備された会場で、テキパキした対応であった。普通の病院の待ち時間に比べると、極めて短時間であった。多くの人材を用い、かなりの費用がかかっていることだろう。第一回ワクチン接種による、私の副反応は幸い全くなかった。

ワクチンはコロナの感染を抑える力があるようで、ワクチン接種が進んでいる国々では、以前のような生活を取り戻している明るいニュースが伝わってくる。日本、韓国、台湾などは、政治力が劣っているためか、ワクチンの入手が遅れている。菅義偉首相は、遅れを取り戻し、1日100万回の接種を目指すと言っている。それには達していないようだが、ワクチン接種を進めようと懸命で、かなりの成果を上げている。権力が意志すれば、相当の進展ができる。この権力を、PCR検査に用い、陽性者を隔離する政策を取れば、感染が抑制できたのではないかなと思う。

ワクチン接種による副反応が話題になっている。米国では、接種者が50%を超えたが、副反応を恐れて、受けないことを選択する人が増えていると言う。色々な手だてをしているが、「宝くじ」まで、用意していると聞き、笑ってしまう。日本でも、接種後に死者が出た、アナフィラキシーショック、失明するなどという報道がある。私の周りでも病弱なので、受けることをしばらく延期するという人もいるし、受けるなど忠告してくれる人もいる。しかし、私は受けることを選ぶ。薬は常に、若干の副反応をもたらすが、自分の感染と他人への感染を妨ぎたいからである。日本では、米国のように、頑強に接種を拒否する人は少ないであろう。

政府のワクチン接種を進める機動作戦を支持する。コロナ禍を一刻も早く終息させたいからである。しかし政府は、東京オリンピック・パラリンピックを実行するために、機動作戦をしているに間違いない。どうしても、オリパラ問題に重なってしまう。最近、感染学的知見に基づく意見を出してきた「分科会」の尾身茂会長は、オリパラ開催について、下記のような厳しい意見を出している。パンデミックの最中、オリパラの実行はあり得ない。するとするならば、オリパラを実行する意義を国民に分かるように説明する。また、感染拡大のリスクを負う覚悟はあるのか、と。当たり前の議論である。ところが、政府はオリパラを強行する姿勢に変わりはないらしい。人の命とIOCの命令のどちらを大切に思っているのか。オリパラ開催まで、ワクチン接種は高齢者には行き渡るだろうが、若者には届かない。9万人もの人が動くと言われている。感染拡大のリスクは避けられないだろう。菅首相は、退陣の道を開くためにオリパラを強行するのであるだろうか。